

【実践報告】

教職実践演習（中・高，栄養）の報告

広島文教大学

| | | | |
|-------|--------|-----|------|
| 教育学部 | 教育学科 | 教授 | 笹原豊造 |
| 人間科学部 | 人間福祉学科 | 教授 | 菅井直也 |
| 教育学部 | 教育学科 | 准教授 | 白石崇人 |
| 人間科学部 | 人間栄養学科 | 講師 | 塩田良子 |

0 まえがき

グローバルコミュニケーション学科および栄養学科の学生が合同で学ぶのは、今年度が最後となる。来年度よりは、栄養教諭を目指す学生のみが対象となる。この点を考慮して、栄養教諭育成に重点を移した内容にする必要がある。

1 本演習の方針

教育実践演習は「教職課程の履修の全体を通じて身に付けるべき資質能力を最終的に形成し、その確認を行うための総合実践」として位置づけられる。この演習では、「教員として求められる4つの事項として、①使命感や責任感，教育的愛情等に関する事項，②社会性や対人関係能力に関する事項，③幼児児童生徒理解に関する事項，④教科等の指導力に関する事項）」について研修を深めることを目的とする。

2 到達目標 以下の事についての知見や態度を高める。

- ①教員としての使命感や責任感，教育的愛情等に関する事項
- ②教員としての社会性や対人関係能力に関する事項
- ③教員としての幼児児童生徒理解に関する事項
- ④教員としての教科等の指導力に関する事項

3 授業計画 実施場所（模擬授業教室）

| 回 | 月日 | テーマ，時間 | 担当教員 |
|---|--------|----------------------------|-------------|
| 1 | 9.28. | ガイダンス | 笹原・菅井・塩田・白石 |
| 2 | 10.05. | 特別支援教育Ⅰ～幼児と低学年児童の場合～レポート提出 | 古田（講師） |

| | | | |
|----|--------|---|----------|
| 3 | 10.12. | 特別支援教育Ⅱ～高学年と中学生の場合～レポート提出 | 古田（講師） |
| 4 | 10.19. | 教育時事問題（1）教育の時事問題に関して，調査し発表，質疑応答 | 笹原・菅井・塩田 |
| 5 | 10.26. | 教育時事問題（2）教育の時事問題に関して，調査し発表，質疑応答 | 笹原・菅井・塩田 |
| 6 | 11.02. | 教育時事問題（3）教育の時事問題に関して，調査し発表，質疑応答 | 笹原・菅井・塩田 |
| 7 | 11.09. | 教育時事問題（4）教育の時事問題に関して，調査し発表，質疑応答 | 笹原・菅井・塩田 |
| 8 | 11.16. | 教育時事問題（5）教育の時事問題に関して，調査し発表，質疑応答 | 笹原・菅井・塩田 |
| 9 | 11.30. | 教育時事問題（6）教育の時事問題に関して，調査し発表，質疑応答 | 笹原・菅井・塩田 |
| 10 | 12.07. | 保護者・地域対応のワークショップなど | 白石 |
| 11 | 12.14. | 食教育関連 食育の現状と課題に関して，調査し発表，質疑応答 | 笹原・菅井・塩田 |
| 12 | 12.21. | 英語教育関連 早期英語教育に関して，調査し発表，質疑応答 | 笹原・菅井・塩田 |
| 13 | 1.11. | 道徳教育模擬授業①教育資料室の道徳教材を活用して，20分程度の模擬授業 | 菅井 |
| 14 | 1.18. | 道徳教育模擬授業②教育資料室の道徳教材を活用して，20分程度の模擬授業 | 菅井 |
| 15 | 1.25. | まとめ「私の目指す教師像」「私の心に残る先生」に言及し，目指すべき教師像を発表 | 笹原・菅井・塩田 |

受講学生：栄養学科6名 グローバルコミュニケーション学科5名

（1）ガイダンス

第1課題 教育に関する時事問題

教育に関わる様々な事柄に関する歴史的経緯を概観し，今日的課題への意識を高め，教師として必要な資質を高める。

実施手順：インターネットで関連の情報を収集する。それらの情報をまとめ，パワーポイントを活用して発表する。発表者は発表資料を提出する。

A. 政治と教育に関わる課題

1. 日の丸と君が代 教育と日の丸君が代問題と国旗国歌法の成立の歴史
2. 教育委員会の歴史と現状 教育委員会設立の歴史的経緯と変革の経緯
3. 教育公務員とは 教育公務員の法的地位とその他の職種との違い
4. 教育基本法の改訂 教育基本法成立の歴史的経緯と改訂の趣旨

B. 学力に関わる課題

1. 教科書検定の歴史 教科書検定の歴史とその課題
2. 学習指導要領の役割 学習指導要領の歴史とその役割
3. 学力観の変遷 学力とは何か？および今後の展望
4. 学力テストの歴史と現状 学力テスト実施の歴史的過程とその課題

C. 学校運営に関わる課題

1. 校則をめぐる諸課題 校則が果たす役割とその課題
2. 学校という組織 学校組織の特徴と今後の展望
3. 学校制度の変遷 戦後日本の学校制度を概観し，今後の展望
4. 多忙な教員 教員の勤務実態と働き方改革

D. 指導に関わる問題

1. 校内暴力 校内暴力が社会問題化した背景と現状
2. 体罰 主な体罰事件とその根絶を目指す対策
3. 指導死とは 指導死の問題点とその防止のために
4. いじめ いじめ防止対策推進法が成立までの経緯

E. 子どもに対する支援に関わる課題

1. 子どもの貧困 子供の貧困の現状と対策
2. 不登校の現状とその対策 不登校の現状とその具体的な対策

3. 教科書無償制度 教科書無償制度の歴史とその意義
4. 就学支援及び奨学金制度 日本の就学支援と奨学金の現状及び諸外国との比較

F. 新学習指導要領をめぐる課題

1. 道徳教育の課題 教科としての道徳導入の経緯とその課題
2. 主体的・対話的で深い学び 学び方がどう変わるのか、今後の課題
3. 小学校英語教育 小学校英語教育導入の経緯とその課題
4. 食育 食育の現状と今後の展望

第2課題 保護者地域対応のワークショップなど

第1課題で培った知識を基に、現場で遭遇する場面を想定して実施する。教師として、保護者や地域の関係者に対して適切に対応するスキルの習得を目指す。

第3課題 道徳模擬授業

道徳教育に関して様々な課題が指摘されている。それらの課題を乗り越えて、いかに実のあるものとして実践するかを検証する。

まとめ 1年生で履修した教師論で「私の目指す教師像」で発表を行った。4年間の学びで、その考えがいかに変容し、自らの今後の課題がいかなるものであるかを確認する。

(2) 特別支援教育の今日的課題

本講義は、特別支援教育への関心を喚起し、理解を深める契機となっている。

○活動のねらいおよび実際

学生のレポートより

①今回の授業中では主に自閉症の生徒について学びました。生徒が行う自傷行動など、行動一つ一つには理由があることが分かりました。また、生徒一人一人でも理由も違うため、生徒理解がかなり大切になってくることを改めて実感しました。自閉症の生徒は自分が理解していること、経験したことがあることについては出来ることが分かったので、絵や動画を見せ、実際に自分がやってみせることが効果的なことを学びました。

②今回の授業では、主に「合理的配慮」の必要性和見えない部分に目を向けることの大切さを改めて学んだ。以下、「合理的配慮」、自閉症に対する教育について順に述べる。

障害者権利条約の批准によってインクルーシブ教育が推進され、これに伴い「合理的配慮」の定義が示されたことで、学校生活における「合理的配慮」が重要視されるようになった。しかし、実際にどれほどの学校が「合理的配慮」を重視し、どのくらいの児童（生徒）が「合理的配慮」を持って生活できているかどうかは疑問である。ただ、この「合理的配慮」の意識が広がったために、発達障害の児童（生徒）は学校生活を送りやすくなったのには違いないだろう。一方で、反対に送りにくくなった児童（生徒）も存在するのではないかと推察する。また、「合理的配慮」を良いとする児童（生徒）も、その配慮が中途半端であったり過度であったりする場合には、精神的なストレスを与えてしまう可能性があることを教師も児童（生徒）も自覚することが大切だろう。そのため、「合理的配慮」は、合意形成を図った上で可能な限り一人一人の障害の状態や教育的ニーズに応じて決定することが不可欠である。そして、この配慮は、発達障害の児童（生徒）だけではなく、発達障害を持たない児童（生徒）に対しても適切に行うことで、児童（生徒）の成長に繋がり、さらには学校生活が豊かなものになると考える。よって、教師は発達障害の有無に関係なく、何らかの活動をするにあたり様子がいつもと違わないかを注意して見ておく必要がある。加えて、児童（生徒）同士でも気付き合い配慮し合えるよう、クラス全体に「合理的配慮」の意識を普及しておくことも重要である。

(3) 教育時事問題

学生は諸課題に真摯に取り組み、教育について深く多面的に考える手がかりとなっている。

○活動のねらいおよび実際

学生のレポートより

①教科書検定は学問の最先端を改善していくために根底の部分を揃える上では必要かもしれないが、何をどう教えるのかは先生の専門性に任せるべきであり、最終決定の主導権は先生にあるべきであるという菅井先生の話聞き、実習でのことを踏まえると、確かにと共感した。(中略)学力に関わる課題はすべて世間と政府のせめぎ合いであり、政治等の社会情勢が深く関与していることを知った。今後、教育の変化が見られた時は、政治等の社会情勢の動きを見て、どういった関係性があるのか、どういったせめぎ合いのすえ決定されたことなのか等、検討及び推察してみたい。

②今回、特に印象に残ったのは校内暴力に関することである。校内暴力が増えた理由としてはTVの影響などもあることにとっても驚いた。さらに校内暴力が社会問題化した背景には詰め込み型の授業を行ったことで落ちこぼれがでてきたこともある。そのこともあり、ゆとり教育が始まったが、それも学力の低下により失敗に終わっているように感じる。詰め込み型とゆとり教育のどちらが適しているのかについても一度議論してみたい。

また、今回体罰についての発表を行ったが、詳しく調べることが出来たと感じる。私は、体罰がダメな理由としては「人間は動物ではないから」であると考えている。動物は暴力で支配することによって上下関係をつけ、コミュニティを広げていく世界である。しかし、人間は知恵があり暴力に頼らなくてもコミュニティをつくることができ、関係を築くことができる。そのためしつけと称して、暴力に頼り体罰に走ることはいけないことであると考えている。この意見に対して、先生と議論を行ってみたい。

(4) 保護者・地域対応のワークショップ

○活動のねらいおよび実際

学校・家庭・地域連携の意義と方向性について考えたうえで、保護者対応(クレーム対応)のロールプレイングを行って、保護者・地域対応について考えることをねらいとした。まず講義を行い、学校・保護者・地域は学校の目的達成、すなわち子どもの教育のために連携協働することを確認した。とくに、近年のコミュニティスクールの事例を動画を用いて理解し、連携協働の実際を検討した。続いて、保護者連携における教師の心構えとして、子どもにとっては保護者に対する「通訳」となり、保護者にとっては子育ての「パートナー」となることが必要であることを理解した。実際の対応には、カウンセリングマインドが必要であることを確認して、保護者からのクレーム場面を想定したロールプレイングを実施した。特に、教師側と保護者側の想いや背景がずれることを意識して、保護者連携・対応の難しさについて実体験することを意識した。

(5) 食教育関連(食育の現状と今後の展望)

○活動のねらいおよび実際

学校教育での食育の推進食育基本法および栄養教諭制度の概要を確認し、「給食指導、給食の時間における食に関する指導、教科等における食に関する指導、T-T方式、コロナ禍の給食、自校式とセンター方式」などをキーワードに、栄養学科学生が学校における食育の課題と現状について調査・発表し、履修者・教員でその後協議した。

(6) 英語教育関連(早期英語教育に関して)

○活動のねらいおよび実際

小学校英語教育導入の経緯とその課題として、「英語が使える日本人」の育成のための行動計画、英語の教科化(2021年に全面実施)などを確認し、小学校英語教育に問題点はないのか、グローバルコミュニケーション学科学生が賛否両論を調査・発表し、履修者・教員でその後協議した。

(7) 道徳の模擬授業

○活動のねらいおよび実際

本年度の受講者構成を配慮して、栄養教諭志望学生と英語教諭志望学生のペア5組により、既存の教材を使用した授業を構成し、20分間の模擬授業をしてもらい、討論することを狙った。時またしてもCovid-19の蔓延時期にあたってしまい、遠隔授業によらざるを得なくなってしまう。模擬授業をTeamsのプレゼン機能を使って実施するのは、必ずしも不自然ではなく、この間、受講学生の遠隔授業慣れに助けられてスムーズに進行した。

受講学生がとりあげたのは、小学6年生を対象とした「生活習慣を見直そう」「住みやすい社会について考えて、学校のルールを確認する」、中学生対象の「信念を貫いて生きる」「日本人としての誇り」「周りへの感謝」である。

「ルールと（学校に）防犯カメラ」、「学校のルールを変える」など、本質を問い得る着想のものが出てきた反面、無条件に「日本人」を前提にしてしまい外国籍の児童生徒の存在を忘れた構成など、実生活の「今」を見るまなざしは「今だしの感」である。また、両学科の専門的な学びがもっと滲み出ていてもよかったかなとも思う。

(8) 「私の目指す教師像」

○活動のねらいおよび実際

教職課程の4年間のまとめの意味をこめて、「優れた教師に必要な要素」を5項目ずつ挙げ、説明を加えることを課した。これも遠隔方式になった。「教師論」以降の学びにより、あるは充実し、あるは付け加えられている筈である。

結果は下表の通り。

| | 学生A | 学生B | 学生C | 学生D | 学生E | 学生F | 学生G | 学生H | 学生I | 学生J | 学生K |
|---|-------------|-------------|------------|--------|---------|---------|-------------|------------|--------|-------------|-------------|
| 1 | コミュニケーション能力 | コミュニケーション能力 | 主体性 | 熱量・真剣さ | 誠実 | 計画性・責任感 | 授業力 | 聞く力 | 体力 | 観察力 | 観察力 |
| 2 | 判断(思考)力 | 学び続ける力 | 客観的かつ公平な理解 | 教育力 | 素直な心 | 平常心 | 理解力 | 否定しない力 | 語彙力 | コミュニケーション能力 | コミュニケーション能力 |
| 3 | 観察力 | 信頼 | 状況判断能力 | 人間力 | 洞察・察知能力 | 時間管理 | 責任感 | 距離をはかれる力 | 人間的魅力 | 探究心 | けじめ |
| 4 | | 臨機応援 | 教育的愛情 | 学級作りの力 | 知識・経験 | 聞き上手 | コミュニケーション能力 | 助けを求め力 | 自己管理能力 | 協働性 | 情熱・真剣さ |
| 5 | | 鋼のメンタル | ストレス耐性 | 理解・指導力 | 対話力 | 前向き | 人間性 | 想像力(相手の立場) | 協調性 | 指導力 | 授業力 |

包含関係にある上位・下位の項目が、各人の想いととも挙げてられている。いずれも社会や学校のリアルを背景にしていることがよく解り、学びの成果として評価すべきであろう。

(9) まとめ

本演習の受講学生は、教育実習を経て、児童生徒や学校の現実を体感してきている。それに続く本演習により、学校の担い手として、あるいは学校のユーザーたる児童生徒の保護者として、学校と向き合うときのアンカーが下ろせたのではないだろうか。この先の学校教育に向き合う、人間らしさのアンカーである。

ところで、本年度を以てグローバルコミュニケーション学科での英語科教員養成が終了し、この演習も、グローバルコミュニケーション学科の学生と人間栄養学科の学生とが共に学ぶ形態は終了することになる。異なる専門性と触れ合い視野を広げる体験の場がひとつ失われるのは残念ではあるが、栄養教諭の養成課程としての新たな展開を期待するところである。